

遺伝子組換え作物を考える大規模対話フォーラム

遺伝子組換え作物を考える実行委員会

- 日 時 2008年8月9日(土) 午前9時半~午後6時
- 会 場 北海道庁赤れんが庁舎 第1・2会議室
- 主 催 遺伝子組換え作物対話フォーラムプロジェクト(研究代表:松井博和)
- 実 施 「遺伝子組換え作物を考える大規模対話フォーラム」実行委員会(委員長:上田哲男)
- 協 力 北海道
- テーマ ①選択の自由…あるいは多様な選択のために…
②北海道農業の将来について
③科学者や行政の役割…充実したコミュニケーションを実現するために…

開催までの経緯

遺伝子組換え(GM)作物対話フォーラムプロジェクトは、JST/RISTEX(科学技術振興機構 社会技術研究開発センター)・21世紀の科学技術リテラシープロジェクトが、2005年12月に採択した研究グループです。正式課題名は「研究者の社会リテラシーと非専門家の科学リテラシーの向上」と言い、三つ構想を練りました。

- (1)GMO 反対者と研究者の双方向の対話の場を、中立的環境の中に創設する。
- (2)GMO の実像と虚像を推進反対の両側から検討し、共通認識事項を増やす。
- (3)消費者、農家、研究者、流通加工業者の双方向対話フォーラムを、(1)(2)の関与者の支援によって創設し、議論を経て共同宣言を作成し、公表する。

RISTEX は、「プロ市民と言われるような、様々な運動に習熟した方だけでは無い、一般市民の意見の吸い上げ方等を検討され、他にも展開できる普遍的なスキームとして構築されることを期待します」、として私たちの企画を採用しました。現場と机を結ぶ実践的研究活動という位置付けで、協働する相手方との学習会という側面も併せ持つものです。

私たちが目指したものは、GM作物や食品の受容を進めようとする運動でも、逆に反対しようとする運動でもありません。利害関係者を含む様々な関係者による対話や協働作業を通して、両者の認識ギャップや相互理解不足を軽減することを目指しました。得られる「結果」は重要ですが、それ以上に重要なのが、そこに至るプロセスだと考えました。そのプロセスにおいて、対立のあるところでの対話を促すモデル作りも、大切な課題となります。

新しい科学技術がその受容をめぐる中で対立を起こしている。そのような場では、研究者にも市民にも「急がば回れ」的な粘り強さが求められている、と考えられます。私たちは2006年3月以降、場所を決めて反復型の小規模対話フォーラムを展開し、今なお続けています。次いで、2007年3月と2008年4月に、蓄積した様々な考え方を円卓会議によって整理しました。本日討論者の方に意見集約をお願いしている検討項目が、出されたということです。

本日の大規模対話フォーラムは、各地の小規模対話フォーラムや円卓会議参加者の皆様、及びゲストスピーカーや専門家意見交換会参加者の方々、食品政策課の皆様方との協働のもとで可能になりました。言い換えるなら、大学の研究者の自己満足的なイベントではないということです。研究期間中に北海道GMコンセンサス会議に協力する機会にも恵まれ、私たちの研究活動と比較する対象を得ることもできました。

大規模対話フォーラムについて

「遺伝子組換え作物を考える大規模対話フォーラム」は3年に及ぶ実践的研究活動の最終段階の対話です。実行委員会が大規模フォーラムを取り仕切り、実行委員はGM作物対話フォーラムプロジェクトの運営委員会が選びました。実行委員会は実行委員会事務局によって支えられています。小規模対話フォーラム等の参加者を中心とした人的ネットワークの中から、討論者の8名が選ばれ、実行委員会の了承が得られました。

討論者は、宣言文をまとめる全権を有しています。傍聴者との意見交換において、傍聴者からの意見に対する態度は、それらの意見を最大限尊重しながらも、討論者グループの合議によって定まるとします。また、討論者であれ傍聴者であれ、終了間際になってからの新たな提案は、時間的制約から、この会合では論じないこととします。ファシリテーターは討論者の議論を手助けする役割に徹しますが、場合によっては積極的な産婆役をする余地を残しておきます。

※イエロー・カードやレッド・カード：対話を円滑に進める小道具として、小規模フォーラムで使用したことがあるカードを出します。使用基準は以下の通りです。

- 長すぎる発言が重なる（3分がメド。3分たったらベルを鳴らします）
- 会話の一般的マナーを守らない場合
- （その場にはいない人も含め）相手を誹謗中傷しない
- 会の趣旨から離れてしまい会の進行を妨げるような発言を繰り返す

※参加者の皆様の了解を得た上でのことですが、写真・ビデオ撮影・録音についての諸注意。

- ビデオは学術・研究に限ります。一般の人は写真撮影のみとします。
- 映像を利用する場合、肖像権等、扱いには十分気をつけて下さい。
- 極力、全体的な撮影を心がけて下さい。

【実行委員会】

上田哲男	委員長：北海道大学電子科学研究所
池野富美子	コープさっぽろ
筑井直樹	毎日新聞
丸子剛史	北海道庁農政部食の安全推進局食品政策課
松村由貴	北海道庁農政部食の安全推進局食品政策課
(吉田省子)	全体ファシリテーター：GM作物対話フォーラムプロジェクト

【討論者】

大滝悦子	北海道生協連
大館国昭	南幌町の畑作
喜多村啓介	北海道大学大学院農学研究院
佐々木八重子	主婦
芝池博幸	農業環境研究所
鳥井啓一	元行政、コンサルタント
中村由美子	千歳の酪農業
福原裕	苫小牧市で豆腐製造業

【実行委員会事務局】

大原眞紀	事務局長
全般：	
	吉田省子（ファシリテーター）、 近藤真人、佐藤秀美、村田均、 横田麦
情報発信支援：	
	石原孝二、宮入隆
傍聴者支援：	
	蔵田、酒井、渡辺（グループF）

【コメンテーター】

平川秀幸	大阪大学コミュニケーションデザインセンター
------	-----------------------

【全体責任者】 松井博和